

## 工事競争入札心得

（総 則）

第1条 標茶町が発注する工事請負の競争入札にあたっては、標茶町財務規則に定めのあるもののほかこの心得を承知してください。  
（入札保証金等）

第2条 入札参加者は、入札執行前に見積もった金額（消費税及び地方消費税を含んだ額）の100分の5に相当する額以上の入札保証金を納付し、又はこれに代える担保を提供し、若しくは町を被保険者とする入札保証保険契約の保険証券を提出しなければなりません。ただし、入札保証金の納付を免除された場合は、この限りではありません。  
（入 札）

第3条 入札参加者は、入札書を作成し封書のうえ、入札件名及び自己の氏名を表記して提出（入札箱に投函）しなければなりません。  
2 郵送等によることが認められている場合は、入札書を契約担当者が確実に受領したことが証明できる書留郵便等の方法によることとし、外封に「入札書在中」と朱記してください。

3 入札参加者は、入札時間に遅れたときには、入札に参加することはできません。ただし、事前に連絡があり、遅れた理由がやむをえない場合は、入札参加者全員が認めた場合に限り入札に参加することが認められることがあります。  
なお、無断で入札に参加しなかった場合は懲罰審査の対象となる場合がありますので、入札時間に間に合わない場合は、事前に連絡をしてください。  
（公正な入札の確保）

第4条 入札参加者は、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成12年法律第127号）及び私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはなりません。  
（代 理）

第5条 入札参加者は、代理人（復代理人を含む）をして入札に参加させようとするときは、当該入札の執行前に、その旨を証する書面（委任状）を入札執行者に提出しなければなりません（入札参加登録時に、入札に関する件についての委任状が提出されている者については必要ありません）。この場合において、入札書には、入札参加者（委任者）と代理人の氏名（法人の場合は、その名称及び代表者氏名。復代理人の場合は代理人の名称及び代表者氏名も併せて）を併記し、代理人（復代理人のときは復代理人）が押印して入札するものとします。

2 代理人は、2人以上の者を代理することはできません。  
（入札書の書き換え等の禁止）

第6条 入札参加者又はその代理人は、その提出した入札書を書き換え、引き換え、又は撤回することができません。  
（無効入札）

第7条 次の各号のいずれかに該当する入札は、無効とします。

- (1) 資格のない者の入札
- (2) 入札書に記名又は押印がなされていない入札
- (3) 入札書記載の金額を訂正した入札
- (4) 2以上の入札書を提出した者の入札
- (5) 不正行為による入札
- (6) 入札の内容が確認できない入札
- (7) 再度入札において、初度の入札における最低入札価格より高い金額又は同額の入札
- (8) その他入札条件に違反した入札

（開 札）

第8条 開札は、通知した場所において、入札書の提出（入札箱に投函）終了後直ちに入札参加者又はその代理人の面前で行います。ただし、郵送等により参加者又はその代理人が出席できないときは、当該入札事務に関係のない職員を開札に立ち合わせます。  
（再度入札）

第9条 開札の結果、落札に至らない場合は、直ちに出席者（初度の入札参加者）で再度入札（1回のみ）を行います。ただし、予定価格を事前公表している入札については再度入札は行いません。

2 入札（再度入札を含む）により落札に至らなかった場合には入札を終了し、随意契約によることがあります。  
（落札者の決定）

第10条 有効な入札を行った者のうち、予定価格の範囲内で最低の価格で入札した者を落札者とします。ただし、最低制限価格を設定した場合は、その最低制限価格以上予定価格の範囲内で最低の価格で入札した者を落札者とします。

2 落札者となるべき価格で入札した者が2人以上いる場合は、くじ引きにより落札者を決定します。この場合において、くじを引かない者があるときは、当該入札事務に関係のない職員にくじを引かせます。  
（最低価格の入札者を落札者としない場合）

第11条 開札の結果、次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、予定価格の範囲内で最低の価格で入札した者を落札者とし、ない場合があります。

- (1) 当該申込みに係る入札金額によっては、その者が当該契約の内容に適合した履行がなされない恐れがあるとき。
- (2) その者と契約を締結することが、公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあるとき、著しく不適当と認められるとき。

2 前項の規定に該当する入札となった場合は、落札者の決定を保留し、調査を行った後落札者を決定します。なお、当該入札を行った者は、この調査に協力しなければなりません。

3 第1項の規定に基づき、最低の価格で入札した者を落札者とし、ない場合は、予定価格の範囲内で申込みをした他の者のうち、最低の価格で申込みした者を落札者とします。  
（入札保証金等の返還）

第12条 落札者が決定した場合、入札保証金又はこれに代える担保若しくは保険証券は、落札者に対しては契約締結後に、落札者以外の者に対しては入札終了後に返還します。

2 不落札の場合においても、すべて返還します。  
（契約の締結）

第13条 落札者が当該契約を締結しようとするときは、契約担当者の作成した契約書案に記名押印のうえ、落札決定の通知を受けた日から7日以内に契約担当者に提出しなければなりません。  
（入札保証金等の帰属）

第14条 落札者が当該入札に係る契約を締結しないときは、当該落札者が納付した入札保証金又はこれに代えて提供した担保若しくは提出した保険証券は、町に帰属します。

2 落札者であって入札保証金の納付免除をされた者が契約を締結しないときは、当該落札者の見積もった契約金額（消費税及び地方消費税を含んだ額）の100分の5に相当する額の違約金を町に納付しなければなりません。  
（契約保証金等）

第15条 契約を締結しようとする者（契約保証金の納付を免除されている者を除く）は、契約金額の100分の10に相当する額以上の契約保証金を納付しなければなりません。ただし、町を被保険者とする履行保証保険証券を提出したとき、又は保険会社に町を債権者とする公共工事履行保証証券を提出させたときは、契約保証金の全部又は一部の納付を免除します。  
（入札保証金等の充当）

第16条 落札者は、当該入札に係る入札保証金又はこれに代えて提供した担保の一部または全部を契約保証金の一部に当てることができません。  
（談合情報に対する対応）

第17条 入札に関して談合情報があった場合は、入札の執行の延期、事情聴取及び工事費内訳書の徴取を行うこと、又は入札の執行を取りやめることがあります。  
（入札の取りやめ等）

第18条 町長が入札を公正に執行することができないなど特別の事情があると認めるときは、入札の執行を延期し、又は取りやめることがあります。なお、入札参加者が1人となった場合は、入札を中止します。

（入札の辞退）

第19条 入札参加者として指名された者は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができます。

2 入札参加者として指名された者が、入札を辞退するときは、その旨を文書又は口頭により入札担当者又は入札執行者に申し出してください。

3 前項の規定により入札を辞退した者に対し、これを理由に以後の指名等において不利益な取扱を行うことはありません。  
（不正行為に伴う損害賠償等）

第20条 入札に関して談合等の不正行為があった場合は、契約で定めるところにより、賠償金を徴収し、又は契約を解除することができます。  
（工事費内訳書の提出）

第21条 入札参加者は、初度の入札と同時に入札執行者が指示する箇所に内訳書を提出してください。

2 工事費内訳書には、公示用設計書に示す内訳書様式の項目に対応する金額を記載しなければなりません。なお、落札者については詳細な内訳書の提出を求める場合があります。

3 入札参加者は、その提出した工事費内訳書を書き換え、引き換え、又は撤回することはできません。  
（その他）

第22条 第9条第2項の規定による随意契約を行うときは、入札終了後直ちに行いますので、入札参加者は随意契約に備え見積書を持参してください。